



VOL. 60
08年
04月

脳卒中とはどのような病気のこと？ (2)

脳卒中とは脳の血管が詰まったり破れたりして急に症状の起こる病気の総称です。この中には 脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血・一過性脳虚血発作 の4つの病気があります。前号で脳梗塞のことを書きましたので今回は脳出血とクモ膜下出血のことを中心に書きたいと思います。

脳出血とクモ膜下出血とはどんな病気か

脳出血は脳の中に入っている細い血管がもろくなってしまったり破れて急に出血の起こった状態です。脳出血の最大の原因は高血圧で、最近の高血圧の治療の進歩などによって死亡患者は減少していますが、患者数自体はあまり変化していません。一方、クモ膜下出血は脳のすぐ外側を覆っている膜の中に入っている血管が破れてしまったり脳の外側の隙間に血液がたまるために起こります。クモ膜下出血は脳卒中の中で唯一女性のほうが男性よりも多い疾患です。クモ膜下出血は動脈硬化のためではなく先天的な脳動脈にできた瘤が破裂してしまうことによって起こると考えられています。

脳出血とクモ膜下出血の症状・検査・治療

脳梗塞では頭痛はまれですが、脳出血とクモ膜下出血の場合には突然の頭痛が特徴的とされています。またしばしば吐き気やめまいを伴います。脳出血の場合には頭痛の後に手足の麻痺や痺れなどの神経症状が現れ、それらの症状が時間とともに悪化します。それに比べてクモ膜下出血の場合には「バットで殴られたような」激しい頭痛と意識障害が特徴的とされています。

頭痛が生じた後の検査には出血の部位や大きさを正確に診断できる脳CT検査が適しているとされています。ただしクモ膜下出血の原因である脳動脈瘤の発見には脳の血管を写し出すMRA(核磁気共鳴血管造影)が有用とされています。(脳ドックなどで実施可能ですが、ご希望の方は診察のときにその旨を相談ください)

治療は脳出血の場合、出血が大きい場合には手術療法も考慮されますが出血が小さい場合には内科的治療(血圧を下げて再出血を防ぐなど)が主体になります。一方クモ膜下出血の場合には手術が中心になります。

脳卒中と認知症

脳卒中によって認知機能と関連した脳の部位が損傷を受けると認知症(痴呆)が生じることがあり、脳血管性認知症と呼ばれています。65歳以上の認知症の大部分がアルツハイマー型と脳血管性に分けられますが、日本では脳血管性認知症の頻度が欧米よりも高いことが知られています。脳卒中がアルツハイマー型認知症を引き起こすということはありませんが、その症状を顕在化させたり悪化させたりする可能性は十分にありますので、脳卒中を予防することは認知症の予防にもなります。

院内行事と健康などに関するニュース

ダイアレディース会のお知らせ

糖尿病をお持ちの女性同士で楽しく料理を作ったり、お互いの情報交換の時間を持つことを目的にしています。4月は春の食材を使った料理教室を予定しています。肩の凝らないお話と糖尿病向きの料理のコツを患者さん同士でどうぞ。今後の予定は下記を参照ください。

5月16日(金) お茶会

6月19日(木) 調理実習と会食

7月7日(月) お茶会

*8月はお休みとさせていただきます

場所：当院セミナー室

会費：調理実習 800円・お茶会 200円
を添えて受付までお申し込みください

時間：調理実習 10:00 ~ 12:30

お茶会 13:00 ~ 14:30

糖尿病はできるだけ早期に多角的に治療するに限る！！

2008.2月のN.Eng.J.Medという雑誌にデンマークのSteno-2研究の結果が発表され、注目を浴びています。それによれば13年間のフォローにより糖尿病性合併症が重篤にならないうちに複数の薬剤を併用してチーム医療による治療(看護婦や栄養士などの指導など)を受けると明らかに死亡率が低下することが示されました。

血糖値のみならず血圧やコレステロールの管理をきちんとすることが死亡率を明らかに低減させたと考えることができそうです。医師の診察を受けるだけでなく療養指導を受けるとごりやくがそうです。



休診のお知らせ

ご迷惑をおかけしますが
4/29(火) ~ 5/6(火)
は休診とさせていただきます
ご了承ください

4月						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	30

いよいよ春満開になる季節を迎えました。学生さんも新学年が始まり張り切っていることでしょう。私たちスタッフも学生さんほど若くはありませんが、まだまだ若いつもりでがんばりたいと思います。



今月の
特集

脳卒中の
知識

その2

脳出血など